

日本留学の思い出

文
写真 · 谷 人 旭
Gu, RenXu



1994年7月24日、上海とその周辺地域でフィールド調査
(中央：村上誠教授、左端：筆者)

私は、広島大学大学院社会科学研究所博士課程後期国際社会論専攻で学んでいる留学生です。

振り返ってみると、中国国立華東師範大学専任講師を休職して広島大学に留学して以来、あつという間に四年の歳月が過ぎました。渡日前後のいろいろなことはすぐこの間のことのようにあるが、この四年の間に、日本・広島でさまざまな体験をすることができて、たくさんいい思い出を残せました。

I. 指導教官からの教誨^{かい}

最初村上先生に会ったのは、一九九〇年の夏、復旦大学をご訪問になった時であった。その瞬間、真剣かつ善良な教授は、今後私の日本での唯一の肉親である、と直覚的に確信した。

一九九一年十二月三日に広島大学にきて以来、指導教官である村上誠教授から、研究の面だけでなくいろいろな機会を与えていただき、より多くの知識を勉強させていただいた。

例えば、学生向けの授業や野外実習に出席させていただき、学生の試験の監督をさせていただいて、日本の大学生の勉強する状況を知ったほかに、一人の大学教官として各種の技能をかなり身につけるようになった。

また、自分の学位論文のために、日本と中国の両国におけるフィールド調査にも同行していただいて、社会科学としての科学的な調査方法、および政府機関や民間企業・組織・人々との付き合いなどを教えていただいた。これ

は、帰国後、一人前の大学教官として教鞭をとりながら学術研究を行うのに、たいへん役立つに違いない。

しかも、日常生活などの面でも面影を見ていただき、たいへん厳しい単身留学生生活を支えていただいた。もし、それがなければ、考えられない結果になっていただろう。これらは、一生忘れられないことである。

II. 「型同意異」の文字に注意

同じような漢字を使っている中国と日本において、その文字の発音はもちろん、意味がまったく逆になるケースについては、この四年の間にさまざまの経験をしてきた。

一九九一年十二月四日に、広島大学事務局で入学の登録をした時、自分の名前 (Gu RenXu) を「グレンシュ」と発音されたことに驚いた。以来、「タニさん」や「グさん」、「コクさん」、「ウさん」と呼ばれて、遂に自分が誰か自分自身でもよく分からなくなった。

この印象深い経験を持って、一九九三年十一月二十九日に、府中市商工会議所国際交流会で講演を行った時、中国へ進出しようとする各企業の意思決定者にもっとも説明したかったのは、まず中・日両国における言葉の意味の相違である。それは、同じ文字であっても意味がまったく違うケースがよく存在し、注意しておかなければ誤解を引き起こしやすい恐れがあるからである。

また、自分が学位論文を書いた時、改めて難しく感じたのは、依然として

中国語と日本語における「型同意異」の文字による違いということである。特に、両国に関する比較研究を行う時、これは重要な問題であると考えられる。

III. ついにスピーチコンテストで優勝

日本留学のもう一つの思い出としては、一九九五年十一月四日、フェニックスフェスタの関連事業である「留学生による日本語スピーチコンテスト」で第一位になったことである。

一九九五年十月二十四日、広島大学統合移転完了記念事業実行委員会からその当日発表することになったという通知を受け取って、そして、出場者の中で滞日期間が最も長い者が私であるということを知った。以後、村上先生から「恥ずかしいくないように頑張ってください」と言われた。それは、ほんとうに緊張した経験であった。

プロフィール

- ◇一九六一年 中国山東省に生まれる
- ◇一九八二年 華東師範大学卒業 (理学学士)
- ◇一九八六年 華東師範大学大学院博士前期課程修了 (理学修士)
- ◇一九八六年 華東師範大学助手
- ◇一九八八年 華東師範大学専任講師
- ◇一九九一年 広島大学大学院社会科学研究科入学

